

ウイルス性の肝がん・重度肝硬変治療研究事業における 対象患者の一層の救済を求める

請 願 書

請願団体 **日本肝臓病患者団体協議会**

〒161-0033 東京都新宿区下落合 4-27-5-201
電話03-5982-3159 F A X 03-5982-2151

請願人氏名 (印)

請願人住所

紹介議員 (印)

請願の趣旨

ウイルス性の肝がん・重度肝硬変治療研究事業における新制度の実態を調査して、早急に肝がん・重度肝硬変患者をさらに幅広く救済するよう検討し対処してください。

平成21年12月に成立した肝炎対策基本法の前文に「B型肝炎及びC型肝炎に係るウイルスへの感染については、国の責めに帰すべき事由によりもたらされ、またはその原因が解明されていなかったことによりもたらされたものがある」と記載されているように、多くの感染者は過去の血液行政や医療行政の不具合により感染し発症しています。

私達患者団体が長年要望してきた「ウイルス性の肝がん・重度肝硬変患者に医療費助成」が平成30年12月から、治療研究促進事業として開始されました。対象者の条件は「過去1年間に3月入院・高額療養費で世帯年収370万円以下の場合、4月日から自己負担額1万円」です。制度は開始後2年余を経過して、見込数月7200人に対して実績数は月70人前後で1%未満の実績が継続し、条件の見直しのために実態調査が行われました。その結果、令和3年4月より対象者の条件を「過去1年間に2月入院・通院・高額療養費で世帯年収370万円以下の場合、3月日から自己負担額1万円」に緩和されました。

現在、見込数月7600人に対し実績数は2~3%程度です。今後周知が進んだとしても、見込数に対して実績数が1~2割程度に増加するのかが疑問です。理由は、制度の条件がこの病気に苦しむ患者の実態に合っていないからです。ウイルス性の肝がん・重度肝硬変の患者は、過去1年間に2~4度入退院を繰り返す患者もいますが、多くの肝がん患者は年に1度程度を何年も繰り返しています。

この治療研究促進事業の趣旨はB型・C型肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変患者の特徴（肝がんは再発率が高く、長期的に治療を繰り返すことが多い、重度肝硬変は、肝性脳症、食道・胃静脈瘤、特発性細菌性腹膜炎等の合併症の治療を繰り返す）を踏まえ、患者の医療費の負担の軽減を図りつつ、肝癌・重度肝硬変治療にかかるガイドラインの作成としています。

新しい制度では過去1年間に3月入院治療（高額療養費）が条件ですが、前制度の4月入院治療と同様に対象者の多くは予後の短い患者に限られます。また、分子標的薬等の通院治療の適用まで拡大しましたが、大変厳しい状態の患者が対象であることに違いありません。

研究事業の趣旨は、予後が厳しい重度肝硬変の患者と、肝がんの特徴である長期的に再発を繰り返す患者の救済を目的にしていますが、現在の条件は、最も重症で予後が厳しい短期的に通院・入院を繰り返す患者を対象とした制度になっており、長期的に発がんを繰り返す多くの患者は制度から除外されています。

ぜひ、研究事業の趣旨に合うよう、早急に1月日から入院・通院・高額療養費として、ウイルス性の肝がん患者と重度肝硬変患者をさらに幅広く救済して下さい。年に1度程度の入院患者は人数が多くても、月当りの入院人数は多くありません。患者はもう待てません。

また、収入要件を抗ウイルス剤の医療費助成制度と同様に世帯全員の市町村民税（所得割）235,000円以上は月自己負担額上限20,000円、以下は月上限10,000円として下さい。以上の条件で実績も見込数、予算額の範囲に入ると考えられます。

以上から、私達は下記の請願を致します。

請 願 項 目

ウイルス性の肝がん・重度肝硬変治療研究事業における新制度の実態を調査して、早急に肝がん・重度肝硬変患者をさらに幅広く救済するよう検討し対処してください。

氏 名	住 所

募金

◆都道府県名は不要ですが「同」「々」などで省略せず、区市町名から所番地まで正確に記載してください。お願いいたします。

キリト